

■第46回日本臨床化学会年次学術集会報告
平成18年9月8日(金)~9日(土) 昭和女子大学
報告者:後藤知佳(検査一科科长補佐)

招待講演「メタボリックシンドロームの病態と診断へのアプローチ」
～アディポネクチン測定の意義を中心に～

講師: 門脇 孝 先生(東京大学大学院医学系研究科教授)

この度参加させていただいた第46回日本臨床化学会の招待講演におきまして、糖尿病やメタボリックシンドロームに関する最新的话题を拝聴する機会を得ましたのでご報告させていただきます。

先生は去る9月6日放映の、NHK『ためしてガッテン』でもオブザーバーとして出演され、「糖尿病 健康診断の落とし穴」というタイトルで隠れ糖尿病患者の実態をご助言されていました。それによると、「隠れ糖尿病は通常健康診断で実施されている空腹時血糖値やヘモグロビンA1cでは正常域を示すため発見することができない。それを発見するためには、75g経口ブドウ糖負荷試験を実施し、負荷後2時間値を確認しなければならないが、検診での実施は困難で糖尿病患者見落としの原因となっている」と指摘されていました。

今回先生がご講演された内容の概要は以下のとおりです。

■糖尿病の現状

欧米型化した食生活や運動不足などの生活習慣の変化により、日本の糖尿病の罹患者数は約740万人、予備軍まで入れると1,620万人ともいわれており、生活習慣病としてはわが国の主要な疾患となっています。さらに、糖尿病に肥満・高脂血症・高血圧が合併するメタボリックシンドロームは、心筋梗塞や脳梗塞のリスクを大幅に増大させ、日本人の健康寿命を短縮する最も大きな原因となっています。

■アディポネクチンについて

先生の研究グループは、脂肪細胞から分泌されるホルモンの一つであるアディポネクチンという成分を発見されました。このアディポネクチンがインスリンの分泌を促すことにより、血糖値を低下させる働きがあることが確認されています。

健常者では必要十分量が分泌され血糖値が適正に保たれていますが、肥満者ではその分泌量が低下するため、インスリンの作用が抑制さ

れる状態(インスリン抵抗性)が引き起こされ、糖尿病が惹起されることがわかってきました。

また、アディポネクチンは筋肉や肝臓へのグルコース取り込みを増加させ、脂肪の燃焼を促進させる作用や、血管に直接働きかけて、障害部位を修復したり動脈硬化を抑制したりする効果があることも証明されています。

■アディポネクチンと今後の検診等について

残念ながらアディポネクチンの測定は、現在のところ保点未収載であり、日常的検査とは言えません。しかし今後、検診にアディポネクチンの測定を導入することができれば、糖尿病やメタボリックシンドロームにおけるハイリスク者の拾い上げや重症度の診断に大きな効果を発揮するものと考えられます。

さらに先生の研究グループでは、このアディポネクチンを製剤化することにより糖尿病や動脈硬化などの根本的な治療にむけての取り組みも実施しているそうです。